

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)勝川駅前PJ新築工事	階数	地上11F
建設地	愛知県春日井市 松新町 5丁目 8	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	180 人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,500 時間/年
建物用途	物販店,集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年7月 予定	評価の実施日	2016年11月22日
敷地面積	1,572 m ²	作成者	河合
建築面積	806 m ²	確認日	2016年11月22日
延床面積	5,303 m ²	確認者	河合



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.8 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

標準計算 BEE=1.0

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 3.1

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.7

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">5.0</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p>	<p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="font-size: 1.5em; text-align: center;">23.2 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="font-size: 1.5em; text-align: center;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.8</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p>	<p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
		評価点	重み係数	評価点	重み係数				
Q 建築物の環境品質								3.3	
Q1 室内環境					0.40		-	3.5	
1 音環境				3.0	0.15	3.5	1.00	3.4	
1.1 騒音				3.0	0.49	3.0	0.50		
1.2 遮音				3.0	0.49	4.1	0.50		
1 開口部遮音性能			T-2以上にて計画	3.0	1.00	5.0	0.30		
2 界壁遮音性能			Dr-50以上で計画	3.0	-	4.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			Lr-45以下で計画	3.0	-	4.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20		
1.3 吸音				3.0	0.01		-		
2 温熱環境				3.0	0.35	3.0	1.00	3.0	
2.1 室温制御				3.0	0.50	3.0	1.00		
1 室温				3.0	0.62	-	-		
2 外皮性能				3.0	0.37	3.0	1.00		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.01		-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式				3.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				2.0	0.25	4.0	1.00	3.6	
3.1 昼光利用				1.8	0.31	4.0	0.50		
1 昼光率			対象となる部屋に対して十分な窓を設置	1.0	0.57	5.0	0.50		
2 方位別開口					-	3.0	0.30		
3 昼光利用設備				3.0	0.43	3.0	0.20		
3.2 グレア対策				1.0	0.28	4.0	0.50		
1 昼光制御				1.0	1.00	4.0	1.00		
3.3 照度				3.0	0.14	-	-		
3.4 照明制御				3.0	0.26	-	-		
4 空気質環境				4.1	0.25	4.2	1.00	4.2	
4.1 発生源対策				5.0	0.59	5.0	0.63		
1 化学汚染物質			F4☆をほぼ全面的に採用(特記仕様書等)	5.0	1.00	5.0	1.00		
4.2 換気				3.0	0.39	3.0	0.38		
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能					-	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理				3.0	0.01		-		
1 CO ₂ の監視				1.0	0.50		-		
2 喫煙の制御			ビル全体が禁煙として計画	5.0	0.50		-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.3	
1 機能性				3.4	0.40	4.4	1.00	4.2	
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	5.0	0.60		
1 広さ・収納性					-		-		
2 高度情報通信設備対応			各住戸にGbitクラスのブロードバンドが利用可能な計画		-	5.0	1.00		
3 バリアフリー計画				3.0	1.00		-		
1.2 心理性・快適性				3.9	0.30	3.5	0.40		
1 広さ感・景観			住戸の天井高さ2.5mで計画	3.0	0.02	4.0	0.50		
2 リフレッシュスペース				3.0	0.02		-		
3 内装計画			コンセプト、イメージ図、機能の明確化をして計画	4.0	0.96	3.0	0.50		
1.3 維持管理				3.5	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保			維持管理用機能を十分に確保した計画(スペース、洗い場など)	4.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性				2.7	0.31		-	2.7	
2.1 耐震・免震				3.0	0.48		-		
1 耐震性				3.0	0.80		-		
2 免震・制振性能				3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				2.6	0.33		-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.25		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.25		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	-		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			主要な用途上位の2種類以上にB以上を使用	4.0	0.17		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				2.0	0.25		-		
2.4 信頼性				2.2	0.19		-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20		-		
3 電気設備				3.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法				1.0	0.20		-		
5 通信・情報設備				2.0	0.20		-		
3 対応性・更新性				3.0	0.29	2.9	1.00	2.9	
3.1 空間のゆとり				3.8	0.02	2.8	0.50		
1 階高のゆとり			階高さ3.9m以上で計画	5.0	0.60	4.0	0.60		
2 空間の形状・自由さ				2.0	0.40	1.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり				-	-	3.0	0.50		
3.3 設備の更新性				3.0	0.98		-		
1 空調配管の更新性				3.0	0.17		-		
2 給排水管の更新性				3.0	0.17		-		
3 電気配線の更新性				3.0	0.11		-		
4 通信配線の更新性				3.0	0.11		-		
5 設備機器の更新性				3.0	0.22		-		
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22		-		

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
		Q3 室外環境(敷地内)						-
1 生物環境の保全と創出	独自③			2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④		まちなみに配慮した配置、形態、景観形成を計画	4.0	0.40		-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30		-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPIm=	4.7	0.39		-	4.7
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20		-	3.0
3 設備システムの高効率化				4.7	0.39		-	4.7
集合住宅以外の評価(3a.3b)				-	-		-	
集合住宅の評価(3c)				5.0	1.00		-	
4 効率的運用				2.9	0.01		-	2.9
集合住宅以外の評価				2.0	0.06		-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制				1.0	0.50		-	
集合住宅の評価				3.0	0.94		-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護				3.0	0.15		-	3.0
1.1 節水				3.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.98		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.02		-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.8	0.63		-	2.8
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				3.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				2.7	0.22		-	2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				2.6	0.68		-	
1 消火剤				2.0	0.33		-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.33		-	
3 冷媒				3.0	0.33		-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.7
1 地球温暖化への配慮				5.0	0.33		-	5.0
① ライフサイクルCO2概算値:38%				5.0	0.33		-	
2 地域環境への配慮				3.5	0.33		-	3.5
2.1 大気汚染防止				5.0	0.25		-	
燃焼機器を使用していない為、大気汚染物質を全く発生しない				3.0	0.50		-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.25		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減				-	-		-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.33		-	
3 交通負荷抑制				4.0	0.33		-	
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.33		-	
住戸に対して150%駐輪場及び荷捌き用の駐車施設を確保した				2.0	0.33		-	
3 周辺環境への配慮				2.7	0.33		-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40		-	
1 騒音				3.0	0.50		-	
2 振動				3.0	0.50		-	
3 悪臭				-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40		-	
1 風害の抑制				3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制				-	-		-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				1.6	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明の立ち外に漏れる光への対策				1.0	0.70		-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30		-	

重点項目スコアシート
 (仮称)勝川駅前PJ新築工事

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				5.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	5.0	0.10	
② 資源の有効活用				2.8
Q2-2	耐震性・信頼性	2.7	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:23.2%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)勝川駅前PJ新築工

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 都市的な背景を踏まえ、都会的で明るい街並み形成する『新たなランドマーク』を創出、低層部においては、温かみのある柔らかさを感じる材料、植栽を用いることで「幸福で温かい家庭」を想起させる意匠としています。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 開口部遮音性能はT2以上、界壁遮音性能Dr-50以上、界床遮音性能(軽量衝撃源)Lr-45以下で計画。 空気質環境では、建築基準法規制対象外となる材料F4☆をほぼ全面的に採用し、VOCについても放散量が少ない建材で計画。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 高度情報通信設備Gbitクラスのブロードバンドが利用可能で、空調、給排水配管の更新必要間隔は主要な用途上位の2種類以上にB以上を使用。 内装計画でもコンセプト、イメージパースなど機能の明確化、維持管理にも十分に配慮した計画。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 まちなみに配慮した配置、形態、景観形成を計画。 舗装面積を極力少なくし、十分な緑を確保する計画。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 自然エネルギー利用、省エネルギー環境に有効な計画。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 省水型機器などを計画し、汚染物質含有材料の使用回避では、有害物質の含まない材料を使用したり、ハロゲン化物消火剤をしない計画。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 地域環境へ配慮した計画とし、大気汚染防止では燃焼機器を使用していません。適切な駐車スペース、台数を確保、交通負荷制御に配慮。 生ゴミの減容化、減量化をはかり、ディスプレイの設置を計画。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。